



ヒマラヤの青い空とクムジュン校

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会 理事長 鈴木 雅則

2011年5月29日、私は、ヒラリースクール・クムジュン校開設50周年記念式典に招待を受け、開設者故エドモンド・ヒラリー卿夫人でヒマラヤントラストのジュン・ヒラリー会長らと共に、来賓者のネパール政府の教育大臣代理サマン・アディカリ氏より、金色に輝く感謝状の盾を授与されました。

式典は、エベレストを仰ぐクムジュン村のクムジュン校で、4日間にわたり歌や踊りが披露され、最終日となる29日は、1953年イギリス隊のエドモンド・ヒラリー隊員による世界最高峰エベレスト8848mの初登頂日でありました。

私は、1989年松本とカトマンズ両市において、「山と美しい自然」を仲立ちとして、姉妹提携を締結して以来、役員として市民交流の発展を願い、任意団体松本ヒマラヤ友好会会長としても、交流活動を積極的に行って参りました。



世界最高峰エベレスト 8848m

カトマンズを訪れる機会も多くなり、私が1975年最初にエベレスト山麓



ヒマラヤの青い空とクムジュン校



在カトマンズ奨学生たちと激励会

へトレッキングをした際お世話になった、クムジュン村出身の老シェルパ・カミュ・パサン（故人）と、立派に成人された子供達ソナム・シリ（現エベレ

ストビューホテル支配人)、パサン・ダワ (現クムジュン校運営委員)、ソナム・タシ (パイロット、マカルー山麓で 2002 年 5 月、事故で死亡) との再会。

そして 5000m の氷河湖で泳ぐという偉業を毎年行い、サポートしてくれていたシェルパの人々へのお礼として、エベレスト街道にリンゴの木の植樹を始めた長野県出身の冒険家大沢茂男氏 (故人) との出会いがありました。

彼らには、シェルパの若人の将来を案じる気持ちが強くありました。1996 年、彼らの協力を得て、クムジュン校卒業生の進学を支援する為、カトマンズのカレッジへ通学する勤勉学生へ、松本ヒマラヤ友好会奨学基金制度を設立。奨学生の人選にはヒラリースクール・クムジュン校と連携し、2017 年の現在までの 22 年間に、卒業生を含め 100 名の奨学生を輩出しています。

カレッジを卒業した彼らは、ロッジ経営、学校教師、仏画師、医師、行政官等の各分野でプロフェッショナルな仕事をしていると聞いております。



建設中の学生寮



2002 年完成時の学生寮



600m水道引込みと貯水槽

2000 年 4 月には、私が代表となり、各界からの支援をし易いように、NPO 法人松本ヒマラヤ友好会(MHC)を設立致しました。この頃からクムジュン校は、ソルクーンブ地方では有数な学校となり、毎年 350 余名の学生が学び、遠隔地からの学生が学校近くの民家に下宿する等、周囲の負担が多くなっていました。

2001年春、MHCに対し、クムジュン校から、遠隔地学生の為の学生寮建設支援の依頼がありました。早速、5月のMHC総会において、学生寮建設支援を議決。しかし、資金について、MHC国際協力基金の積立金や北アルプス等のMHC登山講習収益では足りず、助成先を探すことに苦慮していました。

ところが、あるきっかけでネパール在日本大使館へ連絡すると、草の根無償資金協力として検討する旨回答があり、さらにライフラインを充実させた学生寮にすべきとの大使館からの助言もあり、計画と見積りをし直して申請すると、9月初旬、外務省本庁も了解した旨、大使館より最終解答がありました。

10月12日、日本大使館小嶋光昭大使（現日ネ協会代表）とMHCの間で、「The Project for The Constructin Of a New Student Hostel in Khumujung School」のプロジェクト名で、当時の日本円で約440万円の資金援助する契約を交わしました。



講堂に周辺村人が集まる



祝賀会開催



学生らによるお祝いの踊り

2002年1月から地元民のボランティアにより、建築資材の石が集められ、3月中旬に工事着工、石を砕き削る音が、朝7時から夕方5時まで、クムジュン村に響きわたりました。カトマンズからのヘリ輸送は計4回行われました。

7月4日無事引渡日を迎え、ナムチェ、ターメ、クンデ、ポルチェやパンボ

チェ等、周辺の村人が集まり、私も出席して盛大に祝賀会が挙行されました。

MHC 支援による建物は、敷地のほぼ中央に配置し、総工事費 510 万円、石造り平家建 2 棟等、総床面積 197.04 m²、また 600m の地下埋設水道引き込みと貯水槽建設を完成させました。現在 2 棟の建物は、学生寮に使用され 23 名が入寮、2 名の舎監の先生が同居しています。

故エドモンド・ヒラリー卿は、1953 年エベレスト登頂後も、クーンブ地域へ訪れ、村々に学校と医療施設が無い事を悲しみ、何かできることはないかと苦悶していました。1960 年の秋のある夜、焚火を囲みながら、老シェルパ、アージェンは、尋ねるヒラリー卿にこう返答しました。「クムジュン村の子供たちは、ヒマラヤの青い空のようにきれいな目を持っているが、知識を通して見る事ができない。子供たちには学校が必要だ」と。



ヒラリー卿が最初に建設した校舎



MHC 学生寮(左)とヒラリー卿胸像



授与された感謝状を持つ鈴木理事長

ヒラリー卿は、この返答に対し学校施設と建物を建てる為、早速基金を立ち上げ、ダーズリンから先生達を呼び寄せました。1961 年クムジュン校は開設され、クムジュンとクンデ村から靴を履いていない 47 人の子供たちが、この地域初めての近代教育を受ける生徒となりました。

1963 年には、ターメ、ポルツェ、パンボチェにも学校を開設。そして、様々

なプロジェクトを支援の為、自らが代表となり、ヒマラヤントラストを設立。学校の新設、診療所開設、水の供給、橋梁、道路建設、そして僧院の保存などに関わり、クーンブ地域に多くの変化をもたらしました。しかし2008年、ヒラリー卿は、シェルパ民族の社会的地位と生活の向上を願いながら、惜しくも88歳でこの世を去りました。

こうして、ヒラリースクール・クムジュン校は、ヒラリー卿の熱い思い入れと行動力から始まり、その思いに共鳴する、世界中の登山者からのシェルパへの感謝の心が、現在もこのクムジュン校に捧げられ、詰め込まれています。

『この学び舎から育っていく、多くの青年達に幸あれ!』と願ってやみません。

MHCは、北アルプス等で行うMHC登山講習や各事業からの収益を、MHC奨学基金やクムジュン校学生寮の維持費などへ支給するため、MHC国際協力事業基金積立を実施し、2018年度も彼らを応援し続けています。

●お問い合わせ、連絡先



連絡先 松本市大字島立 4539-7
特定非営利活動法人 松本ヒマラヤ友好会
理事長 鈴木 雅則

TEL 0263-47-6197 FAX 0263-47-5685 E-mail:mhc@lily.ocn.ne.jp
<http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>

●寄付金も郵便払込取扱で受け付けています。

郵便払込取扱 口座番号 00510-2-63859

加入者名 特定非営利活動法人 松本ヒマラヤ友好会

一口 3,000円